

中学

# WinPass

国語

3年

文学的文章 情景・展開や古典 助詞の補充・主語・会話文等の問題集  
中3国語 | 中学WinPass





(3) 部首 ~~~~~線B「迎」の部首名を、平仮名で答えなさい。

(4) ① 文節・単語 ~~~~~線C「今日は若いお巡りさんだった。」の文節数と、単語数を、それぞれ算用数字で答えなさい。

文節数	
単語数	

(5) ① 熟語を考える ~~~~~線D「別」を使った熟語を、□に漢字を当てはめて二つ作りなさい。

	別・別	
--	-----	--

(6) 語句の意味 ~~~~~線E「不覚にも」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 油断してうっかり
- イ 突然思い立って
- ウ 感動してしみじみと
- エ いつも通りあっさり

文章内容の確認

(7) 場面 この場面の季節はいつですか。漢字一字で答えなさい。

(8) 文章内容の確認 この場面の一週間後は、何の日ですか。次の□に当てはまる言葉を書きなさい。

・「私」の  の日。

基本問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。



(1) 情景 — 線①「朝日がまぶしかった。／川岸の満開の桜が、春風に揺れて笑っているようだった。」という情景から読み取れる心情として、適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 定年を迎え、慣れ親しんだ人々と会えなくなる寂しき。
- イ 定年を迎えた後の、新しい生活に対する不安。
- ウ 定年を目前に感じている、晴れ晴れとした達成感。
- エ 定年までしっかり働こうという、強い責任感。

(2) 場面 — 線②「歩く楽しみ」とは、どんなことですか。文章中から二十文字程度で二つ抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。


(3) 内容理解 — 線③「別れの挨拶をしてあった」とありますが「私」は誰に別れの挨拶をしたのですか。文章中から抜き出しなさい。

(4) 場面 — 線④「年長の男の子が小さな花束を差し出した」とありますが、小学生たちが「私」に花束を渡したのはなぜですか。次の文の□□に当てはまる言葉を、三十字以内で書きなさい。

お巡りさんから、「私」が定年だと聞き、


から。

要点 プラス

・情景描写は、出来事後に示されることが多い。

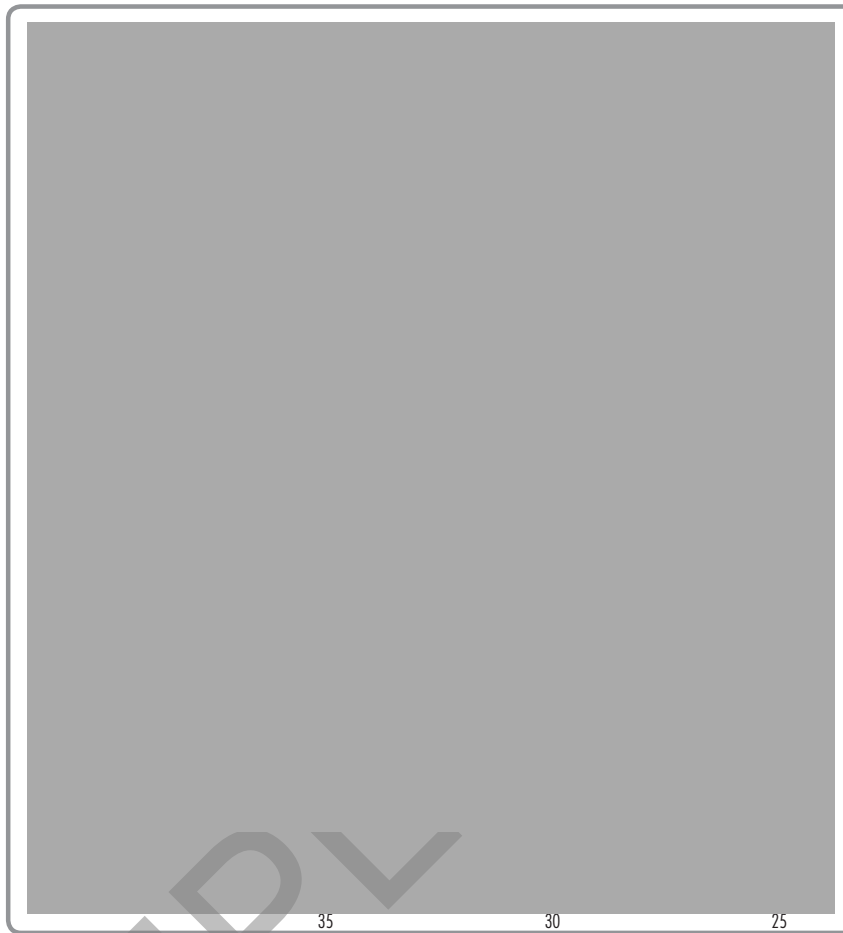
○ けんかをしていた二人の中学生が、仲直りをした (登場人物の状況)

(心情) 仲直りできてよかった。

← 一つの間にか雨が上がり、さわやかな青空に、大きく鮮やかな七色の虹がかかっていた。(情景)

けんかをしていた状況(＝雨)が終わって、仲直りでき(＝青空)、晴れやかになった二人の気持ち、鮮やかな虹の情景に重ねて表現されている。

※物語の初めに情景描写が示されている場合は、その情景が、後に起る出来事を暗示しています。



35 30 25

(5) 内容理解 — 線⑤「胸が詰まって何もいえなくなってしまう」とありま

すが、このときの「私」の気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 礼儀正しい小学生の姿に心から感心する気持ち。
- イ 思いがけない温かい心に触れて感動する気持ち。
- ウ 自分の努力が報われたことに満足する気持ち。
- エ これからも挨拶を続けてほしいと願う気持ち。

(6) 展開 この文章を大きく四つに分けたとき、二番目のまとまりの始まりは

本文の★の箇所と考えられます。三、四番目のまとまりは、どこから始まりますか。それぞれ初めの五字を抜き出さないさい。

三番目	四番目
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

(7) 文章の把握 この文章に描かれている内容として最も適切なものを次から一

- ア 挨拶をすることの大切さ。
- イ 一つのことを継続することの難しさ。
- ウ 支え続けてくれた人々への感謝。
- エ 日常の中で出会った小さな喜び。

演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。



20 15 10 5



50 45 40 35 30 25



(1) 展開 ——— 線①「行くぞ！」とありますが、この後、走哉たちはどのような戦い方をしましたか。次の文の□(a)~(c)に当てはまる言葉を、(a)は四字、(b)は一字、(c)は五字で文章中からそれぞれ抜き出しなさい。

・正面から攻撃するのではなく、相手の手を□(a)ようにして、□(b)に回りこみ、□(c)をついて、帽子をつかもうとした。

□(a)
□(b)
□(c)

(2) 内容理解 走哉たちの騎馬戦の結果を示している部分を、文章中から十一文字で抜き出しなさい。

□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(3) ——— 線②「馬たちの顔にも笑みもどった。」について、次の各問いに答えなさい。

1 場面「馬たち」とは誰ですか。三人答えなさい。

□	□	□
---	---	---

2 内容理解 なぜ「笑みもどった」のですか。その理由として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一生懸命やったことで楽しかったから。
- イ 勝負にこだわることがばかしく思えたから。
- ウ みんなで力を合わせることでできたから。
- エ 今までで一番いい戦いをしたと感じたから。

□
---

(4) 展開 ——— 線③「走哉は両腕をいすにだらりとさげて、ぼんやりトラックをながめていた。」について、次の各問いに答えなさい。

1 この後、走哉の様子が急激に変化します。それがわかる一文を文章中から抜き出し、初めの五字を書きなさい。

□	□	□	□	□
---	---	---	---	---

2 走哉の様子が急激に変化したのはなぜですか。「理想」という言葉を使って、三十文字以内で書きなさい。

□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(5) 情景・文章の把握 ——— 線④「空をあおぐと、飛行機雲が一本、まっすぐなために線を引いていた。」からは、誰の、どのような心情が読み取れますか。

適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ヒロシの、断トツで一位になったことを誇らしく思う気持ち。
- イ 走哉の、みんなが力を出し切ったことをすがすがしく思う気持ち。
- ウ ヒロシの、クラスのみんなの役に立てたことを喜ぶ気持ち。
- エ 走哉の、足が速くて上から目線のヒロシを苦手に感じる気持ち。

□
---

情景描写を捉える→文章の主題に迫る

情景描写は、出来事の始まりや終わりに印象的に描かれ、多くは、文章全体の内容に関わるよつな、重要な心情が反映されています。そのため、情景描写を捉えることで、主題に迫ることができるようになります。

# 17

## 古典(4) 古文 助詞の補充・主語・会話文

学習目標  
 ・適切な助詞を補って読むことができる。  
 ・主語を確かめながら読むことができる。  
 ・地の文と会話文を区別することができる。

### 要点のまとめ

#### ● 助詞の補充

古文では、主語を表す助詞「が」「は」「や」、対象・目的を表す助詞「を」などが省略されていることがある。

- ① 「が」「は」の補充…主語となる言葉の直後には、「が」または「は」を補う。
- ② 「を」の補充…目的語(対象)となる言葉の直後には、「を」を補う。

【例】をりふし北風<sup>が</sup>激しくて、磯<sup>を</sup>打つ波も高かりけり。

【現代語訳】ちょうどそのとき北風が激しく吹いて、磯を打つ波も高かった。

#### ● 主語

古文では主語が省略されていることが多く、また、文の途中で主語が入れ替わることも多い。そのため、順番に主語を確かめながら読む必要がある。

#### 主語を捉える手がかり

- ① 前の文の主語に当たる言葉が、次の文の主語であることがある。

【例】今は昔、丹後<sup>の</sup>国に老尼<sup>あり</sup>けり。地蔵菩薩<sup>は</sup>暁<sup>こと</sup>に歩き給ふといふ

(老尼は)

ことをほのかに聞きて、……。

【現代語訳】今となつては昔のことだが、丹後の国に年老いた尼がいた。地蔵菩薩

は毎日夜明け前に歩きなさいとすることを老尼はほんの少し聞いて、……。

- ② 助詞「の」が主語を表すことがある。

【例】黒き雲<sup>の</sup>、やうやう消えて、しろうなりゆくもいとをかし。

【現代語訳】黒い雲が、だんだん消えて、白くなっていくのもたいそう趣深い。

「の」には、「竹取の翁」「風の音」など、連体修飾語をつくる働きもあるので、「……が」と訳して文脈に合つかを確かめましょう。

- ③ 会話のやりとりの場面では、主語が交互に変わっていることが多い。

【例】(宇多院が河原の院にいと、融の大臣の霊が現れた。)

宇多院が

「あれは誰ぞ。」と問はせ給へば、「この主に候ふ翁なり。」と申す。

宇多院が

「融の大臣か。」と問はせ給へば、「しかに候ふ。」と申す。

【現代語訳】(宇多院が)「お前は誰だ。」とお尋ねになると、(融の大臣が)「この

主人の老人でございます。」と申しあげる。(宇多院が)「融の大臣か。」とお尋ねになると、(融の大臣は)「そうでございます。」と申しあげる。

主語を捉えるには、初めに登場人物を確認しておくことも大切です。随筆や日記などは、文章中に書かれていなくても作者も登場人物の一人と考えます。主語が作者のときは省略されることが多いので注意しましょう。

#### ● 会話文

前後の言葉に注意して会話文の部分を見つける。特に、「言ふ」「申す」「問ふ」など、話すことに関係する言葉の近くに会話文があると考える。

- ・ 会話文の始まり…主語、または、主語+述語の後から会話文が始まること
- ・ とが多く、「いはく」「言ふやう」などの言葉があるときは、直後から会話文が始まる。

・ 会話文の終わり…「と」「とて」「など」の直前で会話文が終わる。

人物、(十述語)

いはく(言ふやう、申すやうなど)、  
 ↓ 会話文 ↓  
 など

主語 会話文 引用の「と」「言ふ」

【例】渡し守、はや舟に乗れ、日も暮れぬと言ふに、……。

【現代語訳】渡し守が、「早く舟に乗れ、日も暮れた。」と言うので、……。





基本問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

姫君ののたまふこと、<sup>①</sup>「人々の、花、蝶<sup>てふ</sup>と愛<sup>あ</sup>づること、はかなくあやしけれ。人は、まことあり、本地<sup>ほんち</sup>たづねたるこそ、心ばへをかしけれ。」とて、よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、「これが、成らむさまを見む。」とて、さまざまなる籠箱<sup>こぼこ</sup>どもに入れさせ給<sup>たま</sup>ふ。中にも<sup>⑤</sup>鳥毛虫<sup>かほじ</sup>の、心深きさましたるこそ心にくけれどて、明け暮れ<sup>5</sup>は、耳<sup>\*</sup>はさみをして、手のうらにそへふせて、まぼり給<sup>たま</sup>ふ。

(注) 鳥毛虫＝毛虫。

耳はさみ＝額の髪がじゃまにならないように耳にかけること。身分の低い者がするしぐさなので、姫君としては行儀の悪いふるまいである。

〔堤中納言物語〕より

【現代語訳】

姫君がおっしゃることには、「人々が、花よ、蝶よともてはやすことは、あさはかてよくない。人は、誠実な心があつて、ものごとの本質□追究してこそ、□。」と云つて、いろいろな虫で、恐ろしげな虫を集めて、「これが、成長する様子を見よう。」と云つて、さまざまの虫かごなどに入れさせなされる。中でも、「毛虫が、考え深そうな様子をしているのが心引かれると言つて、朝晩、額の髪を耳にひっかけて、(毛虫を)手の中に入れて、見守つていらつしやる。

要<sup>122</sup>点  
 ■かぎカッコが付いていない会話文を探るときには、まず「と」「て」に着目して、会話文の終わりを見つけよう。「て」「は」引用を表し、「……と云つて」「……と思つて」など心配。

(1) 主語——線①「のたまふ」、②「愛づる」の主語として適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 姫君    イ 人々     ①  
 ウ 花    エ 虫     ②

(2) 助詞——線③「本地たづねたる」とありますが、「本地」と「たづねたる」の間に補うことのできる助詞を、平仮名一字で書きなさい。

(3) 現代語訳——線④「心ばへをかしけれ」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 性格が変わっている      
 イ 考え方がおかしい  
 ウ 気立てもすばらしい  
 エ 性格がかわいらしい

(4) 会話文——線⑤「鳥毛虫の、」から始まる会話文の終わりの五字を抜き出しなさい。

(5) 文章の把握 この文章から読み取れる姫君の様子として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 花や蝶を愛することは趣深いことと考えている。  
 イ 人よりも虫の方が誠実な心をもっていると考えている。  
 ウ 恐ろしげな虫が成長していく様子を観察している。  
 エ 毛虫が特に気に入っていて、他の虫から守っている。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

能筆(のうひつ) (文字が上手なこと)で名高い昭乗(しやうじやう)が、京都から江戸に行き、將軍の御前で字を書いたときに、関東の水がよくないので書きにくいと言った。

「都にてはいかなる水をもて書くにや。」と問はせ給ふ(たま)とき、<sup>①</sup>「京の柳の水こそいと軽くてよろしき。」と申す。<sup>②</sup>將軍あやしと思しめして、密かに都へ人(のぼ)を上げ、柳の水を瓶(かめ)に入れて取り下らしめ、重ねて昭乗を召し、<sup>④</sup>試みられけるに、筆を取りて硯(すずり)にさし浸し、<sup>⑤</sup>いささか文字を書きけるが、やがて筆を止め、傍(たな)に向かひて、「これは軽くてよき水なり。京にて用ゐる柳の水に変はらずと申しけるにぞ、<sup>③</sup>皆人大いに驚きけるとなん。」

〔現代語訳〕  
 「都ではどのような水で書くのだ。」とお尋ねになると、「京の柳という場所の水がとも軽くてよろしい。」と申しあげる。將軍□不審だと思ひになって、こっそり都へ人をやり、柳の水を瓶に入れて取ってこさせ、再び昭乗をお呼びになって、お試しになったところ、筆を取って硯に浸し、ちよつと文字を書いたところ、すぐに筆を止め、そばの人に向かって「これは軽くて良い水だ。京で使う柳の水と変わらないと申しあげたので、人々は皆たいへん驚いたということだ。」

〔落栗物語〕より

要十  
 ・主な登場人物が二人(人物Aと人物B)の場合、人物Aと人物Bで交互に主語が入れ替わることが多い。  
 ・主語が入れ替わるのは、「……に」、「……は」、「……の」後であることが多い。  
 このことをヒントに、主語がどこで入れ替わっているのかを確かめながら読む。

(1) 主語 — 線① 「問はせ給ふ」、② 「申す」の主語として適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 昭乗 イ 將軍 ①   
 ウ 人 エ 皆人(人々) ②

(2) 助詞 — 線③ 「將軍あやしと思しめして」を現代語訳するとき、どのような言葉を補うとわかりやすいですか。次の□に当てはまる言葉を、平仮名一字で書きなさい。

・將軍  不審だと思ひになって

(3) 主語 — 線④ 「筆を取りて硯にさし浸し、いささか文字を書きける」の主語として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昭乗 イ 將軍   
 ウ 人 エ 皆人(人々)

(4) 会話文 — 線⑤ 「これは」から始まる会話文の終わりの五字を抜き出しなさい。

(5) 文章の把握 この文章の内容と一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昭乗は、都と関東の水が違うといって字を書かなくなった。  
 イ 將軍は、昭乗が自由に書道を楽しめるように都の水を取り寄せた。  
 ウ 書道の名人である昭乗は、墨を擦るための水の違いまでわかった。  
 エ 將軍は硯の水をこっそり変えて、昭乗のうそを見破った。





2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

作者は、土佐とさ(現在の高知県)から船で都に向かっていているが、悪天候のため、しばらく港に停泊していた。今日は天候が回復し、四日ぶりに出航することになった。

①「船疾く漕こげ。日ひのよきに。」②「ともよほせば、楫かぢ取り、船子ふなこどもにいはく、

天候がよいから 催促する

御船みふねよりおほせたふなり。朝北あそきたの出いて来こぬさきに綱手つなてはや引けと言いふ。ここ船君ふねのきみからお言葉ことばをいたしたいよ  
吹ふいてここないうちうちに引ひき綱つなを早はやく引ひけ

の言葉ことばの歌うたのやうなるは、楫取りかぢとりの自おのづからの言葉ことばなり。楫取りかぢとりはううつたつたへに、われ歌うたのやうなること言いふふにもあらず。聞きく人ひとの、「あやしあやしく歌うためきても言いひつるかな。」とて、書かき出いだせれば、げげに三十文字みそもじあまりな

自分が歌うたのやうなことを言いわうとしたしたのでもなない  
不思議ふしぎに歌うたのやう

に言いったことことだだなあ  
書かき出いしてみるみると 本ほん当とうに

〈紀貫きつらぬき之の「土佐とさ日記にっし」より〉

(注) 楫取り、船子ふなこは船頭、船子ふなこは楫取りのもとして働く水夫。  
御船みふねは船君。船を雇かっている人、つまり、作者のこと。  
朝北あそきたは朝あに吹ふく北風きたかぜ。

(1) 助詞——線①「船疾く漕こげ。」を、適切な助詞を補って現代語に直して書かきなさい。

① (2) 主語——線②「もよほせば」の主語として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 楫取り
- イ 船子
- ウ 船君(作者)
- エ 聞く人

(3) 主語——線③「書き出だせれば」の主語として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 楫取り
- イ 船子ども
- ウ 船君(作者)
- エ 聞く人

(4) 会話文 古文の中に、楫取りの会話文で、かぎかつが付いていない部分が一箇所あります。抜き出しなさい。

① (5) 文章の把握——線「この言葉の歌のやうなる」とありますが、「この言葉」のどのような点が「歌」のようだというのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「朝北」「綱手」といった風流な言葉を使っている点。
- イ 和歌のように五・七・五・七・七に区切れる点。
- ウ 歌うときのように、節をつけて話している点。
- エ 「朝北」という季語や「なり」という切れ字を含んでいる点。

「主語は？」と確かめる習慣をつける

☆今も昔も日本語の文は、主語を全て書かないことが多いのですが、主語を取り違えたまま読み進めると文章全体の内容を正しく捉えることができませぬ。

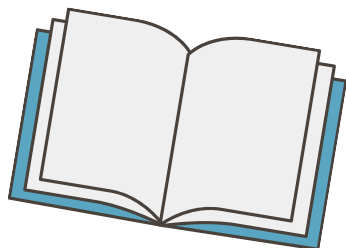
☆最初に、古文に出てくる人物をおまかにつきかみ、人物どつしの関係を押さえたうえで、一つ一つの動作が誰の動作かを確かめながら読むようにしましょ。



紙面サンプルはここまでです。  
弊社教材サンプルをご覧ください  
ありがとうございます。

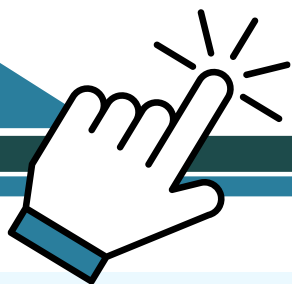
塾・学校の先生限定サイト

Bunri Teachers' Site へのご登録で、  
全ページ版をご覧ください。



登録無料で、他にも便利な機能がたくさん！  
ぜひお役立て下さい。

Bunri Teachers' Site  
会員登録はこちら



※ご登録には弊社発行の招待コードが必要です。

### 教材サポート

単元テスト、指導用資料、  
学習サポートアイテムなど  
指導をサポートするコンテンツ



### 最新の教育情報

社会時事問題、高校入試分析、  
教科書採択情報など最新の  
教育に関する情報をお届け



### 各種教材やテストの お問い合わせ・お申込み

生徒さま一人一人に合った教材・  
テスト・デジタルコンテンツを  
ご提案



※Bunri Teachers' Siteは、塾・学校の先生方のための情報サイトです。  
ユーザー登録していただくことで、会員限定の詳細情報をご覧ください。  
本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。予めご了承ください。

お問い合わせフォーム

招待コード発行や教材の内容・ご購入方法等  
お気軽にお問い合わせ下さい。

資料ご請求フォーム

弊社教材カタログ、教材やセミナーの  
最新情報をお手元にお届けします！